ちょっと寄り道

ゆかりの埋蔵文化財

平安時代、巨麻郡大井郷の中心であった大井地区。弘法大師伝説には、この地に生きたさまざまな人々の願いが映し出されています。

①住吉遺跡（現住宅・集合住宅）

弥生時代後期の住居跡や方形周溝墓と考えられる溝跡が発見されている。平安時代の遺物と土坑が見つかっていて、周囲に平安時代の集落があったことがうかがえる。また中世の溝跡からは、天目茶碗や緑釉陶器、擂鉢、香炉、漆製品など多量の遺物が出土しており、中世の人々のくらし一端を知ることができる。

弥生時代後期の土器

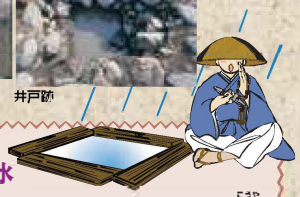
②宮東遺跡

古墳時代前期の土器や中世の建物跡、井戸跡、木棺墓などが発見された。不動寺旧境内であることから、不動寺と関係する施設であると推測される。

礎石建物跡

木棺墓

井戸跡



コラム Column 弘法大師伝説と水

弘法大師空海は甲斐の国を訪れた史実はなく、伝説の数々は高野聖と呼ばれる遊行僧などによって弘法大師の信仰が広められ、地域の伝承と結びついたと考えられています。今回ご紹介した大井地区だけでなく、市内には他の地区にも弘法大師伝説が残されています。例えば御勅使川の伏流水が湧出する加賀美の法善寺にはこんなお話が伝えられています。

法善寺境内に湧き出る泉は「烏池」と呼ばれ、池の中島に井戸が掘られています。その底が竜宮に通じており、弘法大師がこの池で降雨の祈祷をしたところ、瞬く間に雲を呼び、雨を降らせたと伝えられています。それ以来、ひでりの時にこの水を汲んで雨乞いを行えば、その夜、龍が背中に明るい火を灯してこの井戸の上を横切り雨が降ったと言われました。そこからこの水は「竜神水」と呼ばれています。

法善寺の竜神水

一方、御勅使川の洪水が頻繁に起こり、「月夜でも焼ける」と呼ばれるほどの旱ばつ地帯であった存家塚の大滅寺では、こんな言い伝えがあります。

平安時代に起きた御勅使川大水害の復旧のため、空海が朝廷より勅使として遣わされました。空海は、原七郷の守り神として大滅寺に毘沙門天像を彫り、七種の畑作物を行苅する免許状を像内に納め奉納したとも言われています。

弘法大師伝説は、水の豊かな地域や洪水に苦しめられ水の獲得に苦労した地域など、「水」をキーワードとしてそれぞれの地域と深く結びついています。

平成20年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会　文化財課
☎055-282-7269

③村内遺跡（現駐車場）

古墳時代中期の竪穴住居跡。住居跡から多数の壺や甕、高坏などが発見されている。

古墳時代中期の竪穴住居跡

古墳時代中期の土器

④東出口遺跡（現住宅）

弥生時代から古墳時代、そして奈良・平安時代から中世まで連綿と続く大規模集落跡。奈良・平安時代、この地域は巨麻郡大井郷（こまぐんおおいのごう）に属しており、郷の中心集落のひとつであった可能性が高い。

平安時代のカマド跡

平安時代の住居跡

⑤二本柳遺跡（現甲西バイパス・中部横断道、現農道）

中世の水田跡および戦国時代の寺院跡。戦国時代の木棺墓には板材に梵字などが墨書され、内部からは灰、稲穂を載せたかわらけ、銭貨、植物の種子が出土した。このことから寺院にかかわりの深い人物が火葬され、副葬品と共に埋葬されたことが推測されている。また農道の調査では、法善寺の塔頭福寿院跡が発見されている。

発掘調査風景

木棺（戦国時代）
蓋板の表裏には「阿無入巳如来」を示す梵字（オンアビラウケン）が墨書されている。

木棺墨書

木棺の蓋を開けたところ

法善寺境内図

⑥向河原遺跡・油田遺跡・中川田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

水の豊かな湧水地帯を利用して営まれた、弥生時代から江戸時代までの水田跡が発見されている。とりわけ油田遺跡では、籾や雑穀の種子の圧痕が残されている壷片や木製竪杵などが出土していて、当時の食にかかわる貴重な資料となっている。

平安時代の水田跡
油田遺跡

水口跡　向河原遺跡

出土した木製の竪杵（弥生時代中期）油田遺跡

⑦大師東丹保遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

鎌倉時代の杭で護岸された水田跡や水路跡、そして低地の開発を主導した有力者の屋敷と推測される建物跡が発見されている。水田跡からは五芒星「☆」を記した呪符木簡（じゅふもっかん）や人形（ひとがた）、斎串（いぐし）などまじないに使われた木製品が多く出土しており、この地に暮らした人々の切実な願いが伝わってくる。

遺跡全景

出土した呪符木簡

斎串

人形

⑧宮沢中村遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

明治33～42年に全村42戸が現在地へ移転するまで居住していた旧宮沢村の集落跡。建物は水害に備え盛り土された上に建てられている。溝で区画された寺や民家、井戸、流し場などの遺構が発見されており、江戸時代後期の農村風景を復元できる遺跡である。

出土した磁器

本堂跡

七面堂跡

遺跡で散歩

vol.6

MINAMI-ALPS CITY

vol.6

弘法大師伝説

ゆかりの史跡を歩く

●コースあんない　教育委員会～真言豊院～法善寺～教育委員会　距離9.11km　時間約2時間

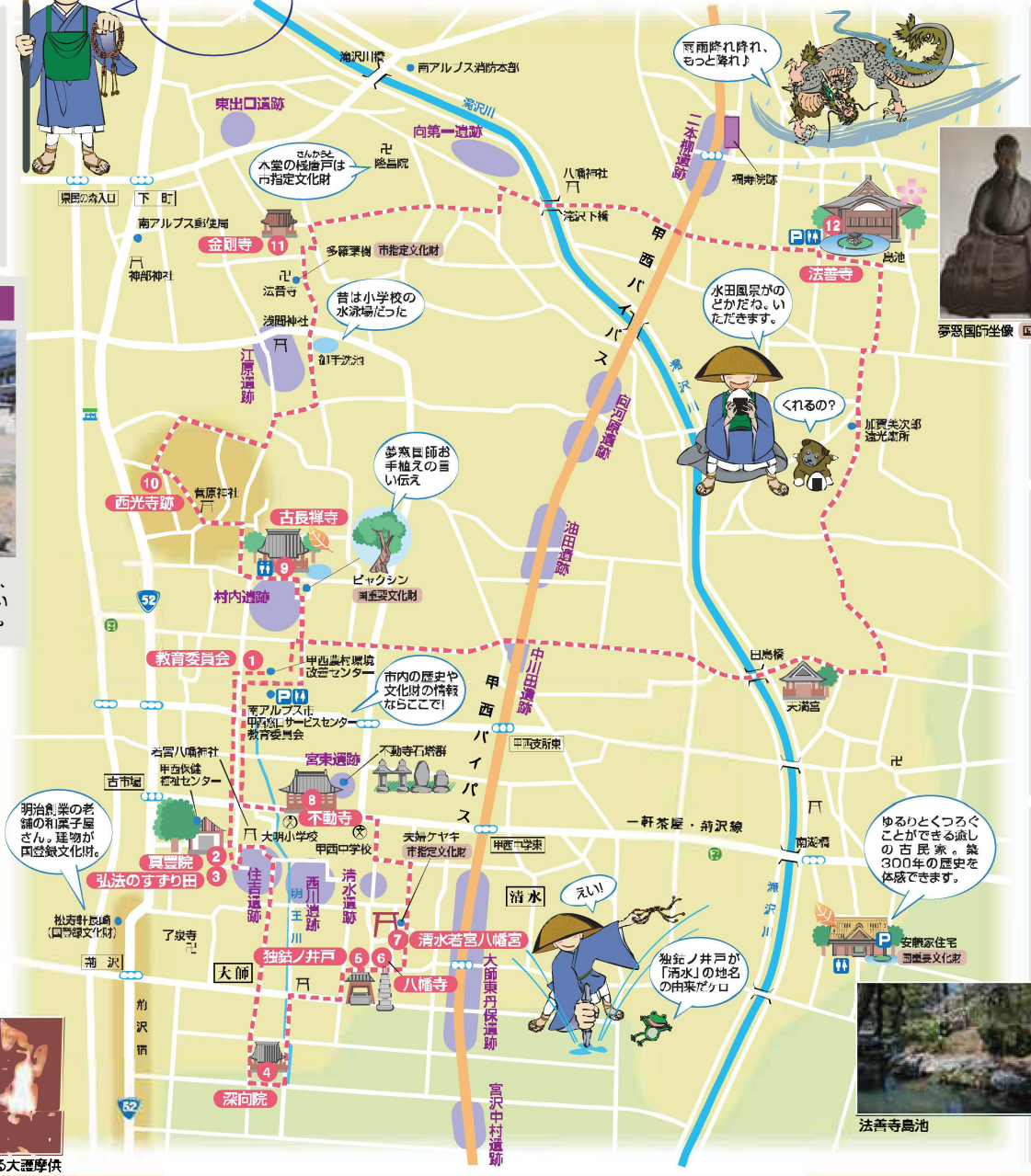
①教育委員会	徒歩7分	0.5km	(2)③真言豊院 弘法のすずり田	徒歩10分	0.8km	④深向院	徒歩7分	0.5km	⑤独鈷ノ井戸	徒歩1分	0.1km	⑥八幡寺	徒歩1分	0.1km	⑦清水若宮八幡宮	徒歩7分	0.5km	⑧不動寺	徒歩12分	0.9km	⑨古長禅寺	徒歩7分	0.5km	⑩西光寺跡	徒歩14分	1.0km	⑪金剛寺	徒歩20分	1.5km	⑫法善寺	徒歩40分	2.7km	①教育委員会

②真豊院

弘法大師が像を安置し創建したと伝えられる寺院。この寺がもとで近辺の村の名を北大師と呼ぶようになったと伝えられる。

③弘法のすずり田

地表が黒色のため、書家の大家であった弘法大師が毎日墨を洗った場所と伝えられる水田。



④深向院

弘法大師が増穂町の泊平に創建した真言宗寺院と伝えられ、鎌倉初期に石和五郎信光が再興して信光寺となり、天文年間禅宗の寺院として宮沢の地に移されたと言われる。

釈迦如来座像 県指定文化財

⑤独鈷ノ井戸

弘法大師が独鈷杵で地面を突いたところ、湧き出たと伝えられる清水。日照りが続いても枯れない井戸として利用されてきた。

⑥八幡寺

弘法大師創建の伝説が残る寺院。武田信武も深く信仰したと伝えられる。

⑦清水若宮八幡宮

八幡寺を弘法大師が建てたとき、若宮八幡の化身である蛍が助けた言い伝えが残されている。

⑧不動寺

弘法大師が川の中から現れた金色に輝く大日（不動明王）に導かれ、不動明王を彫刻して開いたと伝えられる真言宗の古刹。大日が現れた不動寺西側の川は明王川といわれている。寺内には空海が功徳ための水を汲んだ池があったと伝えられるなど、数々の弘法大師伝説に彩られている。

3月に行われる大護摩供

⑨古長禅寺

真言宗の古寺西光寺の寺域に夢窓礎石が開いた臨済宗の寺院。武田信玄の母、大井夫人の菩提寺でもある。 県指定史跡

夢窓国師坐像 国重要文化財

⑩西光寺跡

かつては七堂伽藍を備えたといわれる真言宗の大寺院。現在は廃寺となっており、わずかな石造物のみが寺院の面影を今に伝えている。

⑪金剛寺

弘法大師が、洪水と疫病に苦しむ人々を救済するため薬師如来を彫り、建立したと伝えられる真言宗寺院。

⑫法善寺

京都高雄山神護寺で空海から直接灌頂（かんじょう）を受けた僧「神徳（しんとく）」が、逸見の地（北杜市）に創建したと伝えられる真言宗の古刹。甲斐源氏加賀美遠光の館跡である現在地に遠光の孫遠経が移転したと言われる。 市指定史跡